

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284003

研究課題名(和文) 認識の成立・知の探求・社会生活・幸福のための記憶の役割と可能性に関する学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary Studies of the Role of Memory in the Appearance of Cognition, Epistemic Inquiry, Social Relationships, and Human Well-Being

研究代表者

金山 弥平 (KANAYAMA, Yasuhira)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：00192542

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,400,000円

研究成果の概要(和文)：人間と動物の違いの一つは、感覚のみではなく、そこから成立する記憶と経験に基づいて理性的に生きようとする点にある。その際に人が依拠するのは事実に限らない。むしろたとえ事実とは異なっているとしても、記憶がその人の将来の行為、および過去の出来事の評価を左右するのである。また、人間の記憶は無限でないがゆえに、文字による記録による知の伝達が重要となるが、蓄積したものを取り出す過程で、可塑的な人間の脳に留められた記憶は次々に書き換えられ、それがさらに人の幸不幸に影響を及ぼす。本研究では、哲学、文学、美学、心理学、精神科学の共同の下、こうした問題に各分野の研究者が取り組み、それぞれ一定の成果を上げた。

研究成果の概要(英文)：The difference between humans and animals lies especially in that humans are capable of trying to lead a rational life, not only by following perception but also on the basis of memory and experience originating from perception. What they rely on in this endeavor is not necessarily true to facts. It is rather memory that influences their future action and evaluation of the past events. However, because their memory capacity is so limited, it becomes essential for them to record obtained information by writing and other means, and this enabled them to transmit such information to posterity. This process of storage and retrieve naturally leads to the rewriting of memory, which in turn influences the well-being of each person. Each participant of this interdisciplinary project tackled these questions and has produced solid results from various standpoints in each of their fields of studies, including philosophy, literature, aesthetics, psychology and mental science.

研究分野：哲学

キーワード：哲学 記憶 筆記 物語 幸福 脳 ノスタルジア 文化財

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の母胎は、名古屋大学研究推進室「グリーン・ライフイノベーション研究会 / 生きるちからとわざ分科会」にあった。これは本研究代表者が、研究分担者の齋藤芳子、大平英樹、畝部俊也、中村靖子と協力し、平成23年度から一般公開の形で企画・開催し、人間の生とその福利促進に関わるかぎり、分野を限定せず、研究会・講演会を開催したものである。そのなかで、人間の生において記憶の果たす大きな役割に注目することになった。

(2) 記憶がなければ、人は認識や情報伝達のみならず生存さえ不可能になる。記憶はまた、哲学ではしばしば、人格の同一性を保証するものとされる。しかし忘却や記憶の書き換えという現象は、人格同一性における記憶の役割、更には自己意識についての再考を促す。そのような中、近年、脳領域間の機能的結合としての default mode network が、意識や記憶に密接に関連するものとして注目されてきた。また記憶の書き換えはうまく利用すれば、情動制御や幸福確保にも繋がる。そこから本研究では、哲学を中心軸とし、インド思想、文学、美学、心理学、精神科学の共同の下、意識や認識の成立・知の探求・社会生活・幸福・人間の福利増進に向けて記憶がもつ可能性を古代の知恵、現代科学の成果を参考にし、共同討議を行いつつ、各自が各専門分野で最新の研究を進めていくこととしたのである。

2. 研究の目的

(1) 哲学の歴史において、最近の情報処理論的モデルが登場するまでは、古代ギリシアにおいて提出されたモデルが基本的にその後受け継がれてきた。それは前8世紀にギリシアで採用されるようになった表音文字アルファベットの影響のもと、用いられ始めた筆記用具のモデルであった。パピルス巻物もその一つであるが、それ以外に、蠟の書き板も代表的なものであった。プラトン『テアイテトス』の記憶モデル、蠟の塊もそれに基づくものであり、それがのちに tabula rasa へと受け継がれていく。現代では、コンピュータが人間の記憶のモデルとなっているように、各時代毎に、それぞれの記憶モデルが成立し、それが人間の認識、世界の捉え方に影響を与えていったのである。研究の目的の一つは、そのようなモデルの具体的な詳細の明確化を通して、記憶が果たしうる多様な役割を明らかにすることにある。この方面では、金山がギリシアに始まる哲学史的背景から、また齋藤が情報処理論的モデルから、研究に携わった。

(2) また、注目すべきこととして、記録媒体の乏しかった古代世界では独自の記憶術が発達したという事実がある。一方ではインドで、ヴェーダ口承のための記憶術があり、

それは現代でもなお用いられており、また古代ギリシアの記憶術も、ジャーニー法となって今日でも用いられている。この方面では、畝部が、インド認識論一般のみならず、仏教の唯識思想における名言習気の理論と現代の心理学的知見の比較検討も行うことにした。またギリシアの記憶術は金山が担当した。

(3) また本研究では、図像、イメージの記憶も扱った。この点ではとくに木俣が、教会建築の立場から、研究を行い、また畝部は、仏典やヒンドゥー神話に基づく図像研究を通して、また中村は、文学におけるイメージ、メタファー研究を通して、記憶の問題に迫ろうとした。

(4) さらにまた、ドイツ文学を専門とする中村は、情念とその言語的表象という観点から記憶の形成に焦点を当て、文学を通じた集合的記憶の形成と解体、すなわち民族の神話創設にかかわる記憶の解明を目指した。そして同時に、兼本と共同でフロイト『失語症』の翻訳に携わった経験を踏まえ、フロイトの記憶論に関する研究をも行うことにした。

(5) 兼本は、側頭葉てんかんにおける記憶障害の特性という最新の研究テーマを追究するとともに、記憶に関するフロイトや、また彼とは立場を異にする精神病理学者の見解を研究することを目指した。

(6) 大平と川口は、心理学の立場から記憶の研究を行った。ただし両者のアプローチは異なる。大平は、fMRI を用いた脳神経科学的な研究を行い、他方、川口は、自伝的記憶の想起に伴って経験される感情、つまりノスタルジアが人間にとってどのような機能を有しているか、更にはノスタルジアと未来への展望の関係がいかなるものであるか、という問題を検討した。

(7) さらに頼は、教養教育院におけるライティングの指導の実績を通して、記憶と筆記の関わりについて研究することを目指した。

3. 研究の方法

研究の方法は、ディシプリンを異にする諸領域の学際的研究であるところから、各専門研究者に委ねることとした。ただし、他の方法論に接しうることは、学際的研究の大きなメリットである。そこで、各自の関心、研究の内実と方法を共有することをまず目指し、とくに初年度、頻りに講演会、研究会を開催した。その具体的状況は、次の「4. 研究成果」に示したとおりである。これによって各研究者が触発され、新たな領域へと踏み出しえた。

4. 研究成果

(1) 本研究は、「記憶」という問題を中心に、多様なディシプリンが互いを刺激しあいつつ、各々がそれぞれの問題領域に応じて、

研究を展開していくものであるため、全体の研究成果として、何か一つの事柄を特定して紹介することはできない。「5. 主な発表論文等」を見れば明らかなように、本研究の参加者がそれぞれの分野で生み出した成果は、多岐に及び、実質的なものである。また国内のみならず、海外に向けても重要な発信をなした。その具体的内容について記すことは紙数の制限上困難であるので、ここでは本研究の過程で開催したシンポジウム、講演会、研究会について述べることにする。特に日本（名古屋大学）で開催する会合はすべて一般公開のものであり、名古屋大学研究推進室「グリーン・ライフイノベーション研究会/生きるちからとわざ分科会」の頃からのメーリング・リストで案内を送り、一般市民の皆さんの参加を得ることができた。

(2) シンポジウム

2014年11月9日-10日、インド工科大学ボンベイ校、Memory and Human Well Being: Interdisciplinary Perspectives.

研究分担者の畝部とインド工科大学の M. Kulkarni 教授が中心となって計画し、同大学で2日にわたって開催した。発表は日本からは、頼偉寧: Memory and Logical Thinking: How they are connected through academic writing education、畝部俊也: Writing as a Memory Device: Survival Strategy of Buddhism、大平英樹: Brain-body mechanisms underlying affective decision-making based on prior experiences、川口潤: Nostalgia and episodic memory: When people re-experience their own past、金山弥平: Memory, Writing and Mnemonics in Ancient Greece、そして研究協力者として加わった鈴木真: Well-being and the Problem of Adaptation to Prior Experiences、またインドからは、Ranjan Kumar Panda: Memory and Self-Identity: An analysis from a normative point of view、Malhar Kulkarni: Memory: a device in traditional Sanskrit learning、Azizuddin Khan: Realization of delayed intention and its neural correlates: An electrophysiological investigation、Milind Malshe: Some Observations on the Use of Mnemonics in Hindustani Musicであった。その成果は、金山、Kulkarni、畝部の編によって Proceedings of the International Symposium on Memory and Human Well Being: Interdisciplinary Perspectives としてまとめられた。

2015年8月25日、台北・中國文化大学、27-28日、嘉義・國立中正大学、Symposium on Memory (記憶科研: 台湾シンポジウム)

研究代表者の金山と中國文化大学の Hua-kuei Ho 教授が中心となって計画し、同大学と、嘉義の國立中正大学で開催した。発表は日本からは大平英樹: Bodily signals as noise in decision-making: Neural

mechanism mediating association between sympathetic activity and exploration in decision-making、頼偉寧: Logical Thinking Education for Academic Writing: How to effectively build a logical argument based on a thesis statement、川口潤: Nostalgia and mental time travel: When people re-experience their own past、兼本浩祐: Memory in the framework of the brain; struggle between associationist view and Freudian view、金山弥平: Plato's Exploration into Memory、また台湾からは Chen-chi TSAI: Bookkeeping Cooperators and Evolutionary Prisoner's Dilemma、Yuda PAN: Memory as Panel of Time: Augustine on Memory、Martin LAN: Facts, Values, or Whose Memory? - Revisiting the notion of "No Taxation without Representation"、Ching-ju MA: The Shaping of Memory - What Can We Learn from the Greek Vase Painting、Chia-lin HSU: Memories of the Persians in Ancient Greek Iconography、Shi-chi (Mike) LAN: Taiwanese Bereaved Families and Memory of the Second World War、Jung-long HUANG: Memory and Reconciliation in Plato's *Menexenus*、Hua-kuei HO: Perception and Memory in Plato's Doctrine of Recollection であった。

シンポジウム参加者の多様な論題は、記憶がカバーしうる様々の領域にわたるシンポジウムの豊かな実りを示すものである。これらの国際シンポジウムを通して、インド、台湾の研究者との新たな交流を開拓することができた。実際、中國文化大学の Martin LAN 氏には、2017年の次のシンポジウムでも発表してもらうことになり、研究協力をさらに深めることができた。

2017年1月21日、名古屋大学、シンポジウム「人間と記憶」

本研究は平成27年度で終了の予定であったが、節約によって繰越できたこともあり、平成29年度に国内でもシンポジウムを行うことにした。本シンポジウムには、台湾からも Martin LAN 氏に講演者の一人として加わっていただいた。当日の提題は次のとおりである。松井裕美(研究協力者): 20世紀視覚文化における人体比率のダイアグラム - パブロ・ピカソからハルーン・ファロッキまで、鈴木真(研究協力者): 幸福と不幸: 福利における善と悪の区別、中村靖子(分担者): 種としての人間のゆきさき-フロイト、ラマルク、レム、藍元俊(Martin LAN、招待講演者): Tithe, Tax, Common Logics & Memories - Scenarios in Legal Thinking and Traditions、金山弥平(代表者): 古代ギリシアにおける右回り-時計回り、反時計回り?

(3) 海外の研究者の招へい
また海外著名研究者を招へいし、一般公開の

形で講演会等を開催した。

アショーク・アクルジュカル(カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学名誉教授)

2013年11月19日、名古屋大学、The Miracle of Memory in Indian Practice and Theory (インドの実践と理論における記憶の奇跡)

リック・ベニテス教授(オーストラリア、シドニー大学)

2013年11月23日、京都大学、Interactive memory and Recollection in Plato's *Meno* (プラトン『メノン』における相互記憶と想起)

2013年11月26日、名古屋大学、Plato the Swan: Philosopher, Poet, Priest of Apollo (白鳥プラトン: 哲学者、詩人、アポロンの神官)

2013年11月28日、名古屋大学、Interactive memory and Recollection in Plato's *Meno* (プラトン『メノン』における相互記憶と想起)

マーク・マクフェラン教授(カナダ、SFU)

2014年11月21日、京都大学、Socrates' Refutation of Gorgias: *Gorgias* 447c-461b (ソクラテスのゴルギアス論駁、『ゴルギアス』447c-461b)

2014年11月25日、名古屋大学、Justice and Piety in the Digression of the *Theaetetus* (プラトン『テアイテトス』「脱線議論」における正義と敬虔)

2014年11月27日、名古屋大学、Virtue, Luck, and Choice at the End of the *Republic* (プラトン『国家』最終箇所における徳と運と選択)

マルセロ・ボエリ教授(チリ、アルベルト・ウルタド大学)

2015年5月12日、名古屋大学、Aristotle on what is common to body and soul. The case of memory (アリストテレスと記憶: 心身に共通のもの)

2015年5月13日、名古屋大学、Plato's wax block model and the Stoic account of memory (記憶モデル: プラトンの蠟の塊とストア派の記憶論)

2015年5月17日、上智大学、日本哲学会年次大会インターナショナルセッション Philosophy in Latin America

2015年5月18日、慶應義塾大学、Aristotle on what is common to body and soul. The case of memory (アリストテレスと記憶: 心身に共通のもの)

藍元俊(Martin LAN)教授(台湾、中國文化大学) 上記(2)の を参照。

(4) その他研究会、講演会(いずれも名古屋大学で開催)については次のとおりである。

2013年7月10日、金山弥平、ギリシア哲学、とくにプラトンにおける記憶

2013年9月25日、安川晴基(慶應大学理工学部)、ミュージアムと集合的記憶のマッピング - ドイツ歴史博物館、ベルリン・ユダヤ博物館、記録センター テロのトポグラフィ - を例に

2013年10月25日、木俣元一、ゴシックのステンドグラスを読む - 物語と記憶

2014年1月24日、泉美知子(國學院大学)、宗教建築と記憶 - 近代フランスの文化財保護運動の観点から

2014年2月5日、兼本浩祐、解離性障害における「意識」の障害 - 脳の中の記憶と脳からはみ出す記憶

2014年5月15日、川口 潤、人はなぜなつかしさを感じるのか - 記憶の心理学から

2014年7月24日、「記憶が繋ぐもの」日本・インド国際シンポジウム(2014年11月、インド工科大学ボンベイ校)に向けての構想発表研究会

2015年12月22日、木俣元一、『ホルトゥス・デリキアールム』写本における「神殿の垂れ幕」: 天空とモーセのヴェールとしての解釈

2016年2月22日、松井裕美、19世紀美術解剖学における身体の構築 - 理想像の歴史化と理論化の諸問題

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計129件)

金山 弥平、Approach to Time in Ancient Greek Philosophy, *Journal of the School of Letters, Nagoya University*、査読有、13巻、2017、11-26

金山 弥平、The Birth of 哲學 (Tetsugaku) in Japan, *Tetsugaku*、査読有、1巻、2017、169-183

中村 靖子、種としての人間のゆくさきフロイト、ラマルク、レム、名古屋大学文学部研究論集、査読有、63巻、2017、55-76

金山 弥平、Recollecting, Retelling and *Melete* in Plato's *Symposium*. A New Reading of *hē synousia tokos estin* (206C5-6), *International Plato Studies*、査読有、35巻、2016、249-256

金山 弥平、プラトンの探求とアイデア界の知性、臨床精神病理、査読無、37巻(2)、2016、119-123

木俣 元一、パリとゴシック様式の形成、

美学美術史研究論集、査読無、27 巻、2016、73-88

Osumi, T., & Ohira, H., Heart-rate deceleration predicting the determination of costly punishment: Implications for its involvement in cognitive effort expended in overriding self-interest, *International Journal of Psychophysiology*, 査読有、109 巻、2016、29-36

大平英樹、価値・予測・誤差 社会性を支える意思決定システム、エモーション・スタディーズ、査読有、2 巻、2016、46-55

中村靖子、フロイトの方法 - 観察と思弁のあいだ、名古屋大学文学部研究論集、査読有、62 巻、2016、83-105

Bai, Y., Katahira, K., & Ohira, H., Valence-separated representation of reward prediction error in feedback-related negativity and positivity, *Neuroreport*, 査読有、26 巻、2015、157-162

Ohira, H., & Hirao, N., Analysis of skin conductance response during evaluation of preferences for cosmetic products, *Frontiers in Psychology*, 査読有、6 巻、2015、1-5

Hatano, A., Ueno, T., Kitagami, S., & Kawaguchi, J., Why Verbalization of Non-Verbal Memory Reduces Recognition Accuracy: A Computational Approach to Verbal Overshadowing, *PLoS One*, 査読有、10 巻、2015、1-22
DOI: 10.1371/journal.pone.0127618

Kanemoto, K., Tsuda, H., Goji, H., Tadokoro, Y., Oshima, T., Tachimori, H., De Toffol, B., Delusional experience awareness gap between patients and treating doctors - Self-reported EPDS questionnaire, *Epilepsy & Behavior*, 査読有、51 巻、2015、60-64
DOI:10.1016/j.yebeh.2015.06.033

金山弥平、懐疑(スケプシス)の射程、『思想』、査読無、1098 巻、2015、2-6

金山弥平、幸福とは何か? - 古代ギリシア哲学、とくにソクラテス、プラトンの視点から、中部哲学会年報、査読有、45 巻、2014、1-12

大平英樹、感情的意思決定を支える脳と身体の機能的関連、心理学評論、査読有、57 巻、2014、94-119

金山弥平、ソクラテスの最後の言葉、西洋

古典学研究、査読有、62 巻、2013、24-38

頼偉寧、Introducing a logical thinking approach to teaching academic writing: why academic writing education needs logical thinking education, *NU Ideas. Nagoya University Multidisciplinary Journal*, 査読有、3 巻、2013、1-9

Ito, G., Kanemoto, K., A case of topical poid-induced delirium mistaken as behavioural and psychological symptoms of dementia in demented state, *PsychoGeriatrics*, 査読有、13 巻、2013、118-23

[学会発表](計 122 件)

金山 弥平、Socrates' Last Words, XI SYMPOSIUM PLATONICUM; PLATO'S PHAEDO、2016 年 7 月 8 日、ブラジリア(ブラジル)

木俣 元一、ゴシック聖堂の展示プログラム、第 69 回美術史学会全国大会、2016 年 5 月 28 日、筑波大学(つくば市)

木俣 元一、パリとゴシック様式の形成、西洋中世学会第 8 回大会、2016 年 6 月 12 日、東北大学(仙台市)

木俣 元一、Between the Codex and the Religious Space: From the "Hortus Deliciarum" to the South Transept of the Strasbourg Cathedral, *New Insights into Manuscripts and Printed Books in Early-Modern Japan*, 2017 年 3 月 9 日、ハイデルベルク(ドイツ)

齋藤芳子、大崎章弘、科学コミュニケーション基礎研修の体験、第 39 回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜(横浜市)

金山弥平、Everlasting Inquiry in Ancient Greek Philosophy: Socrates, Plato and the Sceptics, *In Pursuit of Wisdom: Ancient Chinese and Greek Perspectives on Cultivation*, 2016 年 1 月 18 日、シドニー(オーストラリア)

金山弥平、Plato's Wax Tablet, Soul and Mind in Greek Thought. *Psychological Issues in Plato and Aristotle*, 2015 年 10 月 7 日、サンティアゴ(チリ)

木俣元一、The Programme of Display at the Chartres Cathedral: Relics, Eucharist, Stained Glass, The Imagery and Materiality of the Sacred in Medieval Japan and Europe: Buddhism, Shinto, Christianity, 2016 年 3 月 1 日、ハイデルベルク(ドイツ)

大平英樹、身体が意識を創発する - マインドフルネスの神経生理メカニズム、日本

マインドフルネス学会、2015年8月30日、早稲田大学(東京)

川口潤、Implicit influence of memory on object recognition、International Symposium on Object Vision in Human, Monkey, and Machine、2015年11月5日、電気通信大学(東京)

金山弥平、Plato's Pursuit of Roads、A New Perspective on Plato and his Philosophical Methods、2015年3月21日、京都大学(京都)

頼偉寧、How to be clear and convincing in research writing、2nd International Symposium on academic writing and critical thinking、2015年2月21日、名古屋大学(名古屋)

畝部俊也、Writing as a Memory Device: Survival Strategy of Buddhism、Lectures at Savitribal Phule Pune University、2014年11月13日、プネー(インド)

金山弥平、Socrates' Last Words、The Berkeley Ancient Philosophy Workshop、2014年9月2日、バークレイ(米国)

〔図書〕(計19件)

木俣元一、小池寿子、中央公論新社、西洋美術の歴史 中世 II ロマネスクとゴシックの宇宙、2017、670

兼本浩祐、日本評論社、脳を通して私が生まれるとき、2016、190

金山弥平(共著)、世界思想社、プラトンを学ぶ人のために(内山勝利編)、2014、296(158-177)

山田道夫、金山弥平、岩波書店、新版アリストテレス全集5、『天界について』、『生成と消滅について』、2013、401

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金山 弥平(KANAYAMA, Yasuhira)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：00192542

(2) 研究分担者

木俣 元一(KIMATA, Motokazu)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：00195348

中村 靖子(NAKAMURA, Yasuko)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：70262483

畝部 俊也(UNEBE, Toshiya)
名古屋大学・文学研究科・准教授
研究者番号：10362211

大平 英樹(OHIRA, Hideki)
名古屋大学・環境学研究科・教授
研究者番号：90221837

川口 潤(KAWAGUCHI, Jun)
名古屋大学・環境学研究科・教授
研究者番号：90221837

頼 偉寧(LAI, Wai Ling)
名古屋大学・教養教育院・准教授
研究者番号：10528521

齋藤 芳子(SAITO, Yoshiko)
名古屋大学・高等教育研究センター・助教
研究者番号：90344077

兼本 浩祐(KANEMOTO, Kosuke)
愛知医科大学・医学部・教授
研究者番号：80340298

(3) 連携研究者

()

(4) 研究協力者

鈴木 真(SUZUKI, Makoto)
関西福祉科学大学・社会福祉学部・准教授

松井 裕美(MATSUI, Hiromi)
名古屋大学・文学研究科・特任講師